

令和2年2月1日 山西小学校意見交換会

出席者 16人

1 開会

14:00～

2 挨拶

森教育長

3 説明

永井指導主事 「第1回意見交換会で出された学校配置に関する意見の比較について」

「小中一貫教育のメリット・デメリットについて」

4 意見交換

中里地区住民：9案が出てきたのは、第1回意見交換会で出された意見のまとめというご説明でした。さらに意見交換会では出されなかったもう一つの案として、現存の小学校3校をそのまま、中学校1校という案で、これもまた◎○△という評価をされるのかと思いますが、出された案に対して、どうそれぞれの立場で受け止めるかという事です。

中里に住んでいますが、ここにC、D、Eがありまして、評価項目の②-1で△となっています。中里地区が分断されるという事で、非常に地区としては大変なことで、これが△とは何か。評価なのですが、◎○△というのは、絶対的評価基準はどうあるのか。今詳細な説明がありましたが、△と○の間とかがないのか。全体的に表を見たときに、Fの案が一番◎が多くて△が二つだから、全体的な視野でみれば可能性が高いのでしょうか。

私の意見は、②-2として適切な通学距離が半径2キロを超えるのが△と評価するならば、中里地区が分断されるのは×ではないか。これは地区にあってはならない事だと思います。C案は二宮秦野線で東西分ける案でいつ、どこで出てきたのか議事録を調べたら、7月26・27日頃に西中に出てきた案でした。その案は東西に分け、東側は二宮小と二宮中、西側を山西小と二宮西中、一色小は廃校という案だったと思います。まさにC案です。

意見を集約した全ての案がここに出ているのではないかと思います。評価基準がかなり曖昧です。これによって案を選択されたら困ります。もし町が9案の中から、これを肉付けして選択していくのならば、もう少し中身をきちんと説明できる様にしていく必要があります。C案は二宮秦野線で東西縦に分けるという事で線引きされていますが、二宮秦野線との話は出ていなかったと

思います。中里が分断されて△ならば、中里を迂回するなり、中に入れ込むなり違った形で東西という案も出てくるのかなと思います。一つ一つの項目が、もう少し内容を踏まえた形で対処していければ、理解が深まるかなと思います。

課長：教育委員会議でも指標という話も出ましたが、指標となる尺度となるものはありませんでした。最初は、事務局で半径2キロを超える円が大きいかわ小さいかで小さければ○、大きければ△にしていたのですが、教育委員会議で教育委員と話し合いを重ねて、◎○△の評価をつけてきました。指標が曖昧の中で、委員会として判断せざるを得なかったところであり、その点はお詫びしたい。中里の分断の仕方、もう少し考え方があったのではないかとのお話も、その通りで、皆さんから細かい意見をいただけない中で事務局が合理的に分けてしまったと言うところがあります。中里地区や区域割が勝手にされてしまった地区の方は本意ではない部分があるかと思っています。

この案のここの地区をこうしたら受け入れが良かったのではないかなど、ご意見をいただければありがたいです。

中里地区住民：評価基準とありましたが、例えば①—2「小中学校の児童生徒が相互に交流しやすい」は、善と良として評価されているようですが、逆の場合もあるのではないのでしょうか。見習うべきでない中学生を見て、小学生が萎縮してしまうのではないかと、肯定的に見るのはどうでしょうか。問題ではないかと思っています。

小中一貫校は、2000年に呉市から始まって20年、色々な所で出来ていますが、メリット・デメリットの評価を調べられたのですか。

分離型、一体型どちらがどのようなメリットがあるのか調べられたのですか。現場に行って調査されましたか。

部長：施設一体型は視察に行っていない。分離型は東京三鷹市に視察に行きました。一つの中学校に対して2～3の小学校がつながっている形です。分離型小中一貫教育校とコミュニティ・スクールがとても進んでいます。9年間続いたカリキュラムを参考にいただくなどして、それをベースに、二宮町の小中一貫教育校のカリキュラム作りを進めてきたという経緯があります。

教育委員：施設一体型の義務教育学校を、同じ学校を2回訪問させてもらいました。京都大原学院です。土曜日子ども達がいなくて子ども達のいる日に行かせてもらいました。小学校低学年と7、8、9年生（中学校）の年齢が一緒にいるのは、ものすごくお互いに刺激しあっていて、こうありたいなという印象を受けました。7年生の教室の隣に4年生の教室があって、お兄さんお姉さんの姿を何も説明しなくても見えていて、7、8、9年生達は「小さい子がいるし

ね・・・」悪い事ができない意識を持っているようでした。

廊下に自主学習のプリントのボックスが置いてあって、高学年が自主的に持っていく姿を低学年が見ている、大きくなったら僕たちも自分で勉強していくんだと日常的に見ている。規範意識とか先輩への憧れとか僕もあのようになるんだという環境がすごく良い。お昼の掃除も7、8年生と1、2年生と一緒にやる。年齢差を上手くいかされている。最大9年間の年の差の子ども達と一緒にいるというのは、すごく大きな事だなと思います。

中里地区住民：つくば市は筑波大学があるせいか出発は遅かったが、一貫校が来ています。教育長が記者会見で「一貫校は辞めます」とありましたが、二宮町とは事情が違って生徒数が増えています。一校1,000人以上とあって、問題が色々出ているようで辞めたいとの話があります。二宮のように人口減少している町で小中一貫校を始めたのが、その後どうなっているのかを知りたいです。ネットでみると成功例しか出ていないので、実際やめた所があるのかないのか分からない。そのような事を参考にしながら、どのようなやり方で持っていくのか。私は基本的に賛成です。問題点は、中1ギャップと言うが識者によっては実際のところは無いという人がいます。むしろ小中一貫校となると高1ギャップが起こるらしい、小学校中学校で段差を受けてないので、高校に行った時により強烈に感じるらしい。そういう問題を色々ほかの所はどうなっているのか。調べられたのでしょうか。私自身分からないのでお聞きしたいです。

教育長：分離型小中一貫教育校について、神奈川県内で箱根町が学校統廃合しなければいけないという事で、いち早く分離型で研究を始めています。

二宮町より先行して始めていて、小学校をどんどん統合していった5校を3校にしたとか2校にしたとかやっています。また、秦野市でも箱根町と同じ時期に、海老名市と神奈川県内では3つの市町が小中一貫教育を始めました。秦野市は前教育長が、十数年前から小中一貫教育は良いから取り入れたい。その時に、前教育長が荒れる子どもたちを何とかするためには、小学校の先生にも中学校の子ども達を見るという意識を持って欲しいということから、秦野市の小中学校の全教員に、兼務発令をなさいと指示がありました。県としては、待つて欲しいとの事で成就しなかった。当時、成就出来た事は、小学校の児童指導担当、中学校の生徒指導担当、教務主任、教頭に兼務発令をして、小学校でもあなたは中学校の教員を兼ねていますよと辞令を出しました。その大元は、やはり小中を一貫して長い目で子ども達を見る事が大事だよと先行して始めたかったという意図があった。中学校が9校、小学校が13校で9つのグループに分け中学校区で全て小中一貫の指定をしました。グループごとに研究をして、秦野でもワーキンググループを作り、それぞれの教科担当が小中だけではなくて幼稚園から中学校までの指導に対して授業研究をしました。これが当時

の秦野市の小中分離型の一貫校でした。

小中一貫教育をやっているのだけれども、施設が離れているので頻繁に出来ず、教科担任制は、それぞれの学校で工夫するしかできなかった。二宮は、そういった事例を見ていたので前任の府川教育長が、とにかくやるためには教科担任制みたいなものを中学校教員に頼むということで、当時、県の小中一貫教育校モデル事業の委託を受け、二宮中学校に加配された英語科教員の小学校への乗入れを行いました。当時は小学校 5,6 年生の外国語活動でしたが、そういった事で英語の授業に特化して行った経緯があります。

秦野市は小中が隣接校なので行き来しやすいのでスムーズに行く。2つの小学校が1つの中学校にという地区では、先生達が行き来する時間や会議するにしてもなかなか集まらないなど難しいところがあります。

分離型ではなくて、小中一貫の子ども達の長いみとりをするのであれば、先生達が一堂に会して組織を改変して、例えば同じ中学校でも生徒指導、小学校でも児童指導、生活担当指導一体化すれば指導班とかもできるし、PTA活動もひとつの組織にすれば地域の方も一つで済む。デメリットもたくさんありますが、工夫をしてメリットに変えて、子ども達を長い目で一人でも多くの目で支えていけたらと提案させて頂いているところです。

富士見が丘地区住民： 質問です。一覧表になった所に重要な視点を3ついただきました。二番目まで適切な通学とか色々なデータをいただいて、3番目に単級な学級は作らないというのも大きな視点だという前提です。前提として一覧表を見るとFだけ令和12年に単級化が懸念されるとありますが、その状況になったら単級化を考えなければいけないと見るのか、単級化を避けたらなればどういう考え方をするのか教えていただきたい。中学校が3つに分かれる提案は衝撃的だと感じます。部活動がますます厳しいのではないのでしょうか。中学生生徒自身は、この提案をどの様に受け止めるのか教えて欲しい。

部長：単級化に関しては、一色小学校が単級化になってしまうということで、解消しなければと挙げさせていただいています。早い時期に解決しなければいけません。

学校の組み合わせ、地区割を変える事も一つの方法であるかもしれないけれど、その頃になると、コミュニティ・スクールとして学校の状況も変わってきます。10年たてば、地域、学校の連携が今より出来るようになっていく可能性が大きい。仮に全学年単級になったとしても、クラスは単級でも9学年あるので、学校は人数的には多くなります。そこに関わる大人の数も増えてくると思います。その時点で小中一貫教育校が上手く運営できていれば、そのままでいっても良い状況になっているかもしれない。小中一貫教育校の成熟によって、単級の問題は解消できるのではないかと考えています。

部活動に関しては、各学校で部活の内容を絞っていかねばならないのではないのでしょうか。指定校変更を柔軟に。場合によっては、合同でチームを作るなども状況によってあると思います。文部科学省でも、部活のあり方について考えていかないといけないという指針も出しています。全てのクラブ活動が全部の学校にあるのではなくて特色を持たせて、合同でやるとか地域の方に協力をしていただいてやってもらうとか、地域のスポーツクラブを使ってやっていくとか、そういうのも視野に入れるという指示などを出たりしています。二宮町でも考えていく必要があると思います。

中学校が3校に分かれることは、人数が少ないということで制約が出るかもしれないませんが、小中一貫教育メリットを考えれば、先を見据える中で良い状況になっていくのではないかと考え、進めていきたいです。

中学生には、アンケートはやったほうが良いと思っていますので準備を進めています。なるべく早い時期に小中学生に意見を聞いてみたいと思っています。

教育長：小中施設一体型は、小学校があって中学校があって、それをひとつにまとめて小中が揃って一体型の施設になります。F案は、一色に中学校をのせるという事であれば、義務教育学校でなければ作れないのではないかと考えています。

義務教育学校の良いところは、小中学習指導要領に基づいたカリキュラムに加えて、独自の教科カリキュラムを作ることができます。可能であれば、二宮独自の個別教育を徹底的に行うとか、異年齢の集団を個に応じた個別指導や独自の指導を行うなどすれば、二宮に特化した夢が広がるという事が考えられます。どれになるか決まらないが、方向が定まれば、徹底的に研究して、今、文科省は小学校1年生から高校3年生までの間の子ども達のキャリアに関する資料をずっと積み重ねて、キャリアパスポートを作りなさいという指示を出している。子ども達一人ひとりの個性特性を把握し育てるという、どんな手立てが必要かというところで義務教育学校を作れば動きやすいのかなと感じています。それが成功すれば、小中一貫教育校を作ったとしてもそちらの方もいいんじゃないの！となれば、もっともっと二宮の特色が出た教育を進める事ができるのかなと思います。

川勾地区住民：前教育長の時代に提案された一貫校の話ですが、なぜあのような形で出たのでしょうか。事務局で決めた話と言うが、3年間の会議録を調べたが意思決定をされる事は何もなくて出てきたという状況で、どこで教育委員が議論したのか、水面下で勉強したという話を聞き、こういう大事な事をこの情報公開の時代に何故教育委員の意見、意思決定に参画できなかったのか、システムがおかしいのではないかと提言しました。幸い対応を細かく公開していくという方向ということなので、今後その辺もきちんとやっていっていただき

たい。宜しくお願いします。

前年の意見要望を取り入れたなかで、客観的データを取り入れた事は良かったと思います。通学距離の問題、バスを使うのかどうか、一番多かったと思います。

F案が各地区バランス良く配置されていると思います。全体的に◎も多い。東大跡地は、通学距離がかかり子どもにとってはあり得ない場所です。庁舎建設よりも、子どもの将来を先に筋道をつけてあげなければいけない。私の地域では、1時間以上歩くのは無理。個人的にはF案が希望です。

山西地区住民：自分のことを思い出すと小学校6年生の時に中学校に行くのが怖い先生や先輩がいるなど、様々な不安や憶測がありました。同時に期待感もあったが、不安感の方が多い。不安や壁があって、初めて子どもは成長するのだなと、変に滑らかに壁を取り払っていいのかどうかと疑問があります。

今回の小中一貫校の一つ大きな目標は、滑らかな接続とご説明がありました。滑らかにしちゃっていいの？例えば親子の関係でも、お父さんは壁ですね。その壁を乗り越える事によって成長するんだと思う。それと同じように子どもの成長は、壁が大きければ多いほど乗り越える。ただ失敗もある。だからそこに、小学校では小学校の先生のご指導があり、中学校では中学校の先生方のご指導があるんだと思う。指導がなくほったらかしては、うまくいかない。という様な事を考えた時に、小中一貫校は本当にいいのだろうかと感じます。

もう一点は、教員の項目で教科担任制を取り入れた授業。メリットは小学校教諭の教材研究の量が減る。確かに中学校の先生が見てくれるので減るのだろうとは思う。だけど小学校の先生は全人教育、基本的に全部の教科を受け持つ。目の前の子どもを色々な部分から、算数も国語も理科も社会もという中で子どもと接触して成長をさせていく。中学校とは全く違う。それを小中一貫で交流が必要だからと言うことで、子どもの全体を見つつ成長を促すという面に当てはまるのかなと疑問がある。逆に、中学校の先生としてはかなり過密になる。これ以上先生を苦しめてしまって良いのか。子どものためにならない。ゆとりのある中で見ていく。働き方という面では、厳しい。結局、子どもの方へのしわ寄せになってしまうのではないかな。

教育委員：小中一貫校のコンセプトがスタートした時に、最初に感じたのが6年生になったという意識はとても大事だと思います。小中一貫校のポイントというのは、6年生から、小学校から中学校へあがる時にある一つの壁、精神的な壁、学力的な壁、色々な意味での壁がある訳なんですけども、それを二つの場所に分けましょうというのが小中一貫校の基本的な考え方なんです。大原学院に行った時教わったのが、9年間で4, 3, 2の学年で区切るんです。4年生はどういう意味があるかという、二分の一成人式、10歳で一つ区切りにな

って次の大人へのステップへ入っていくんだよという意識をつけるために、最初のリーダーシップの壁を設定してあげる。そこでいったん区切りをつけて中学年に進むんだという意識を作ります。次に8年9年一步手前にその先に進むんだというキャリアアップの壁を作っていく。それが、大原学院でやっていることなんです。今、子どもの心と体の成長は、6，3，3制が定まった頃から2歳も体の成長など早まったと言われていて、これまで12歳で一つの壁だったものを、いったん10歳で区切りをつけて、そこに一つの段差で意味のある壁を作ってあげましょうというのが、小中一貫校の根本的な発想だったりするので、成長のために必要な壁が無くなるわけではありません。

成長に必要な壁は、中でそれぞれ作っていく必要があるのかなと思います。大原学院は、5年生が制服になるので、そこで気持ちを切り替えて、次の中学年のミドルゾーンに入っていくんだという意識を切り替える為に制服というものを作る。成長に必要な壁がなくなるわけではないという事です。

教育長：英語科の専任が小学校に入って教科担任制を先んじて二宮町は実施したというお話をさせていただきましたが、二宮町としては、英語科の教員が小学校の5年生の授業を全て見るわけではなく、T1、T2、ALTも入って三者で授業を展開する。必ずT1という事で中学校の先生にやっていただきながら、小学校の先生がT2で入って授業をみる。そうでないと、子どもが英語の評価を小学校の先生がする訳ですから、そのところは小学校の教員も自分のクラスを把握してみるという事です。

それからワーキンググループが12グループ動いているという事ですが、12個のワーキンググループの中でカリキュラムについて、二宮の特色ある教育のカリキュラムを作っていく指示しています。特色というのは例えば児童が苦手な単元は専門性のある中学校の先生にT1として入ってもらうなどを考えている。二宮町でカリキュラムを一本化して作り、どこに力を注いで二宮の特色ある教育を打ち出そうかといった時に、中学教員がそこにサポートして教科担任制を実施する。それを小学校の教員が受け止めて授業展開を行う中で全ての子どもの成長をみとっていく。学級担任制であることは間違いない。教科担任制の教科の指導に中学校の先生に入ってきていただいて、サポートしてもらう。クラス担任から外れてしまう訳ではないので、そういうことも含めて、小学校の教員は、非常に厳しい状況にあるんですけども、全ての教科をみる。疑問なのが、今入っている小学校の教員は英語教科指導法をやっていない。それでも英語をしなければならない、厳しい状況に追いやられているので、色々な研修をして小学校の先生達は英語の力を高めています。それに先んじて二宮ではそういった方法をとって教科担任制で英語の中学校籍の先生を導入して、4年目にはいります。そういったところで、二宮の英語教育を底上げしていきます。小学校の教員は全て子どもの成長をみとることに変わりはないので安心

してください。

中里地区住民：今回初めてこういった意見交換会に参加しました。3歳と6歳の子どもがおり、たぶん一番当事者だと思う。学校が施設一体型で小中一貫校になるのはとても良いと思うが、比較表を見たときに通学距離がすごく気になります。すごくいいなと思ったのはI案。単級化というのは、好きな部活も大人都合で学校変わらなければいけないのかという事になってしまう。どうせ9年間過ごすのであれば、大勢の中で育って欲しいというのは親の率直な願いです。△の多い距離をスクールバスとか交通手段を用意してもらえたりして、解決できるのであれば良いのではないかな。小学校1年生が1時間歩くのは現実的ではないので、意見が狭まっていくのではないかなと思う。小さい子どもを持つ親としては、長い距離を歩かせたくないというのはあるが、それと同時に良い教育を受け、9年間育って欲しいという思いもあるので、そういった所を大人が頑張れば、何か工夫をしたり予算を掛けられるのであれば、クリアできる問題がそこにあるのであれば、まずは通学距離について何かプランを考えているのであればそこを教えて欲しい。

課長：1回目でもI案は出ていて、スクールバスを出すか出さないか検討したが、通学距離だけの問題なのか？というのもあったり、町全体に学校が1校になってしまうということになると、100点の案ではない。それが嫌だという人もいれば、子ども達が分散するのが嫌だという人もいればということです。スクールバスを出すに関しては、結論を出すに至っていない。中学校をまとめる事で部活動の機会を確保するとか、小学校区に一校くらい学校があるとか、施設一体型の小中一貫教育をとるか、三択くらいにしばれてきてはいるので、どこを選ぶかの話になるかと思います。

中里地区住民：距離が解決されれば、大人都合で子ども達の事はそんなに考えられていないというのが率直な意見で、一番はやっぱり子どもの為にどれだけ頭を使うか予算を使うかとかを考えて欲しいなと思う。スクールバスは予算がないから無理とかではなくて、1校になれば今まで3校に使っていた分、予算を集約できるのであれば何かできるのではないかな。小学校から中学校までのメリットを考えたときにF案にするのは単純。これから、今育つ子どもが全部それぞれにクラスしかない学校が3つ町の中にあるって、昔の過疎地みたいな感じかなと思います。これからの教育というのをこれだけ考えているのであれば、分散させられるより集約されている方が教育の質が上がるのではないかな。小中一貫に関しては良いと思うが、分散されるのはいやだ。知識も情報もない中で自分の子どもをどう育てていきたいかと考えたときに、施設分離型の小中一貫のメリットがわからない。今日参加している一般の保護者が私だけという

のも、今皆さんが一生懸命考えられている意見が、保護者の声が届いていないというのが現状だと思う。2月に色々と会を設け、資料もあるが、当の保護者達が一番不安であるが、分かっていないし、足を運びにくい。意見交換会となるときちんとした意見を持って参加しなきゃいけないんじゃないかと、私も来るのをためらった。

釜野地区住民：教育長の話、永井先生話を聞いていて、二人の考え方が微妙にずれているのではないかと。教育長は、小学校の授業は、担任の先生が参加するのではなくて、T1、T2という形でカバーする。永井先生は、その時間は中学校の先生が授業する捉え方です。これは、大きな違いです。これをやるとしたら、相当の教材研究が必要です。新しい学習指導要領では、新しい指導法が入る。学び方を変える。徹底的な違い。先生達は、このための教材研究などに相当のエネルギーを使います。これがこの形で可能なのか。一貫教育を否定しているわけではない。やるからには、腹を据えて人をしっかりと配置して、しっかりとやってほしい。それをしないで、ただ形のうで一貫教育を導入することはちょっとどうなのかという、そういう考えです。

例えば施設を一体型にします。例えば、学び方を変えとなると、教育条件を変えなければならないということが出てくるのではないかと。一貫教育は、もうやっておかしくない。支援教育に関しては、一貫をやらなければいけない。個別教育計画は、作成しなければいけない義務になっている。人、金の為に頑張って予算を確保していただきたい。

中里地区住民：配布資料を確認したい。候補案の学校配置の欄で二宮西中学校 or 山西小学校と書いてあるが、山西小学校と二宮西中学校では通学距離が全然違うので、案として山西小学校案と二宮西中学校案を用意すべきです。

B、C、D、E、F案、二宮西中 or 山西小と出ています。二宮西中と山西小のどちらかで※を見ると全部二宮西中ですよ。暫定として、施設の問題ですよ、校庭とか。二宮西中と山西小のどちらを選ぶかで通学距離で言うと町内のバランスが変わっちゃうはずですよ。表がまるで変わる。なのに、表の案は一つ。本来であれば全然条件が変わるのだから、別の案にすべきだと思います。でも、同じ案にしているということは、山西小が残ることがあり得ないというふうに見る事ができます。表に二宮小と書いてないということは、なぜ山西小と書いてあるのか？書くのであれば、案を変えるべき。どうなんですか。確認をしたい。

課長：どの案をとっても山西小はかなり厳しいです。山西小は、今の児童の規模でいくと校庭の面積が間に合わない。校庭が狭い。本来であれば、ここは二宮西中と書くのが一番いいのかなと思います。今日会議が行われているのが山西

小なので、地域の皆様にお聞きしたいのですが、事務局としては二宮西中しかないのかなと思っているところですが、そこについてご意見等ありますか。

中里地区住民：F 案、私は、最悪だと思います。義務教育学校と施設一体型校、種類の違う学校を作った所があります。義務教育学校は、非常に良い教育をやってくれると思って学校区を設定してなかった。そこに集中してしまった。他の学校は、生徒が減って非常に差が生じたと言う例があるので、町内で違うものを二つ設けるのは絶対反対です。

部長：先程の質問ですが、可能性としては二宮西中を活用する状況になるのかなと思います。面積的な、物理的な部分が問題としては大きいです。

中里地区住民：AからFで選択肢を検討するという方向で向かっていますけど、そうではないと思う。これは、一つの出てきた案。9案の大筋で選択してもらっては困る。地域にとってはコミュニティ・スクールが始まって、学校も地域も子どもの為に動いていますから、分断されてしまってコミュニティ・スクールが普通に始めているところが逆行してしまうとかそういうことがあっては困る。単級を作らないが最初の前提ですが、公共施設再編成もあります。大きな前提のなかで捉えてもらわないと意見は一杯ありますので、それを原理原則のひとつの柱としてもらう事は大事です。まだゆとりがあるニュアンスだったので、立ち止まって考えてもらいたいなという意見です。

部長：本日は、大変貴重なご意見を頂きましてありがとうございました。

小中一貫教育につきましては、子ども達により良い学習環境と学習内容を提供したい事、そこだけです。それをやるにはどうしたら良いのかというのを一生懸命考えて、皆さんと一緒に考えていきたいと思っていますところ。今日こういった形で案を締めさせていただきましたけれど、できたらこの中から、教育委員会としてはきちんとした考えを持ってなければならないと思います。どうしても詰めなければいけない3点ほどを伝えて頂きましたので、きちんと踏まえたうえで、この案について絞りこみをさせていただきたいなと思っています。今日いただいたご意見も、十分参考にさせていただきながら、残り7回意見交換会ありますので、意見を整理しながら前に進めていきたいと思っていますので、是非ご協力をお願いします。本日は、ありがとうございました。